

全 仏

ZENBUTSU

J A P A N
B U D D H I S T
F E D E R A T I O N

仏暦2569年1月
[2026年]

No.668

特集 | ミャンマー地震の支援活動の今



写真：川畑嘉文
絵本：「おおきなかぶ」福音館書店

新年のご挨拶 3

伊藤 唯眞 / 公益財団法人 全日本仏教会 第36期会長
日谷 照應 / 公益財団法人 全日本仏教会 第36期理事長

特集

ミャンマー地震の支援活動の今 4

特定非営利活動法人 ジャパンハート
吉岡秀人 (医師、ジャパンハートファウンダー・最高顧問)
シャンティ国際ボランティア会
加瀬貴 (海外緊急人道支援課 課長)

年賀交換 14

本会からの報告 25

- ・第37期会長・副会長が決定
- ・第9回花まつりデザイン大賞発表
- ・第36期第5回国際交流審議会
- ・第7回法人創立70周年記念事業実行委員会
- ・第36期第6回社会・人権審議会
- ・第36期第5回支援検討会議
- ・第8回法人創立70周年記念事業実行委員会
- ・日蓮宗主催「終戦80年慰霊法要」参列及びハワイ訪問
- ・第49回理事会
- ・第9回法人創立70周年記念事業実行委員会

新年のご挨拶

公益財団法人 全日本仏教会 第36期会長

伊藤 唯眞



み仏の慈光のもと、新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。昨年例年以上の酷暑の中、地震・大雨などの自然災害が発生しております。被災された方々にお見舞い申しあげるとともに復旧に尽力なされている方々に敬意を表するところでもあります。令和6年能登半島地震の被災地に対しましても同悲同苦の心で寄り添い、復興の助けになることが肝要であります。一日も早い復興を祈念いたしております。

また終戦80周年の節目にあたり、各地で慰霊と平和祈願の法要が厳修されました。私たちが戦争の惨禍から立ち上がり、平和への道を求めた歴史を振り返り、今一度平和への誓いを新たにすることが痛感されました。世界の現状は依然として暴力、戦争、経済格差、貧困などで覆われ、多くの尊い「いのち」が蔑ろにされています。「いのち」の尊厳が肯定され、その思いが深化しなければ行動化が進みません。

しかし幸いにも昨秋9月5・6日に、本会は第47回全日本仏教徒会議大阪大会を、大阪府佛教会は創立60周年記念事業と銘うち、両者一体となった一大結集がありました。テーマを「無量の『いのち』すべいのちを慈しむ」としたシンポジウムと、「未来社会における宗教の役割」と題する諸宗教対話フォーラムがあり、内容の充実した意欲的な大会でした。本会結成の理念が、今後も脈々と続くことを念じております。

公益財団法人 全日本仏教会 第36期理事長

日谷 照應



新年を迎えるにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。昨年は、戦後80年という大きな節目を迎えました。戦争の惨禍を二度と繰り返さぬとの誓いを新たに、平和の尊さを次世代へと伝えることは、仏教徒としての責務であります。そのため、5月に理事長談話を発出し、12月に沖繩・広島・長崎及び東京にて追悼法要を厳修しました。それらを実現できたのは、ひとえに加盟団体の皆さまのご理解とご協力の賜物であります。

また、9月5日から6日にかけて、大阪において第47回全日本仏教徒会議が円成できましたこと、心より御礼申し上げます。全国各地及び世界の仏教徒が一堂に会し、宗派を超えて仏教の精神を確認し合えたことは、まさに「和合」の実践であり、今後の活動の大きな力となりました。

令和9年には本会の法人創立70周年を迎え、東京にて記念式典及び全日本仏教徒大会が「明日につなげるご縁の力」をテーマとして開催されます。本年は、激動の70年間を振り返りつつ、次の世代へ仏の智慧と慈悲を継承するための準備を進めてまいります。この大会が、世界の仏教徒が共に集い平和を願い、行動する契機となるよう、万全を期して取り組む所存です。

現在、世界は依然として不安定な状況にありますが、仏教の根本精神である「不殺生」「慈悲」「和合」をもって、和平への道を歩み続けることこそ、私たちの使命であります。新しい年が、すべての人々に安らぎと希望をもたらすよう念願いたします。

ミャンマー地震の支援活動の今

特定非営利活動法人ジャパンハート

令和7(2025)年3月、内戦が続くミャンマーにおいて大地震が発生しました。それを受けて本会の救済基金には、ミャンマー支援を指定した義援金が多く届けられました。心より御礼申しあげます。

本会では、それらを現地で医療活動に従事する特定非営利活動法人ジャパンハートと、教育や復興支援に従事するシャンティ国際ボランティア会にそれぞれ150万円ずつ寄託しました。

今号の特集では、ジャパンハートの創設者で医師の吉岡秀人氏と、シャンティの海外緊急人道支援課長である加瀬貴氏に、その活動と、現在のミャンマーの状況についてお話を伺います。2021年に起きた軍政によるクーデター以降、情報が伝わりづらくなった中で、実情を知ることができる貴重な記録です。本特集を通して、各団体への更なる支援に繋がることを願っています。



左から和田学英(本会事務総長)、吉岡秀人氏(ジャパンハート最高顧問)

——吉岡先生は、第二次大戦中にミャンマーで戦死した日本兵の慰霊団から、1995年に依頼を受けて、ミャンマーでの医療活動を始められた。2004年にジャパンハートを設立してからは、「医療の届かないところに医療を届ける」を理念に、カンボジア、ラオス、日本の離島や災害の被災地にまで活動の場を広げました。中には病院を建設するまで至った所もあります。

——中村先生から僕まで間が飛んでいますから、あの時代は、何十年に1人しか僕みたいな考え方が出てきませんでした。そのようななかで僕が組織化できた最大の理由は、インターネットの普及です。ネットでの発信によって、たくさんの方がやってくるようになりました。中村先生は僕にとっては北極星で、それを道しるべに船を漕いでくることができました。後の人たちにはおそらく僕が星となり、彼らは船を進めるでしょう。その後、人はさらに増えて、さらに多くの方が助かる未来を生み出す。僕らはそのプロセスの中にいるのだと思います。

生まれ時代背景や育った場所、僕自身の問題もあって、10代の終わりに、苦しんでいる人のために何かできる人間になろうと思ったんですが、1980年代当時は情報がなかったから医者しか思い付きませんでした。だから、勉強もできないくせに医者を目指したんです。今だったらインターネットを通じて無数の選択肢が見えるので、その道を選んではいけません。

そして30年前に初めて海外に行きました。僕の前と同じような活動をしていたのは、パキスタン、アフガニスタンで医療をしていた中村哲先生だけ

た技術を使ってやっています。みんなが最先端なことを求めるのは一種の「洗脳」だと思うんですけど、それを断ち切れれば、自分がやりたいこと、合っていることが素直に見えて、それをしていくだけだと思います。

——ジャパンハート、つまり「日本の心」と名付けたのはどのような理由でしょうか。

1995年、最初は慰霊団の縁でミャンマーに行きました。大戦中、地獄のビルマ戦線と言われ、日本兵約20万人が亡くなった国です。その遺族の人たちに誘われたんです。当時はまだ戦後50年です。現地のお年寄りもたくさん存命でした。日本兵とは殺しあつたのではなく、子どもとか若い時に普通に交流があつただけですから、彼らにとっても思い出だつたのでしよう。ここでこうやって戦ってたくさんの方が死んだとか、ここで戦闘機が空中戦をやっていたとかいう話をしてくれるんです。

一方で、日本はバブルが終わった直後でした。その時の雰囲気はまあ酷かった。とにかく拝金的で、お金を持っている人、大きな企業に勤めている人が偉い。国全体のそういう感じを見せつけられたその時に僕はミャンマーにいました。戦時中

の軍部の考えは別として、一兵卒の人たちは日本を守るために行ったのだから、命と引き換えにこんな日本ができたことを知ったら、どう感じるだろうと思つたんです。みんなが拝金的な国を作るために、子どもや家族を離れて、酷暑の国で死ななければならなかったのか。マラリアで倒れたり、ひもじい思いで戦つた人たちに報いたとは到底言えないと思ひ、恥ずかしいとすら感じました。ミャンマーには慰霊碑がいっぱいあるので、献花する度に思つたんです、とてもじゃないけど……と。

そう思いながら過ごしていく中で、最初は組織を作る気はなかったんですけど、雰囲気を押されて2004年に作ることにしました。どんな組織、どんな名前にしようかと思つて寝ていたら、満月の夜で部屋に煌々と月の光が入ってきました。明け方、うつらうつらしだした中で、僕の中に満月がバツて出てきて、その上の方がちよつと欠けたんです。リングみたいな形だなど。リングは僕の中では日本でした。戦後「リングの唄」が流行つたでしょう。「赤いリングに くちびる寄せて だまって見ている 青い空 リングは何にも いわないけれど リングの気持ちは よくわかる」。このリングはGHQに占領されている日本。ミャンマーに行つて、そう思うようになったんです。だからリングに見えてきたというのは、僕の中では日

本に見えてきたんです。で、それがえぐれてきてハートの形になる。その時、僕の中でいきなりジャパンハートだと思つた。だから、この組織名は、あの満月の夜のボーッとした感覚の中で、天から落ちてきたという感覚、自分が付けたものではなく、いただいた感じなんです。

あの国に行かなかつたら、こんなに深く日本を考へることもなかったし、恥ずかしいと思うこともなかった。そういうものが全部連なつて最後に僕の中に落ちてきたのがこれでした。この組織はいただいたもので、亡くなった20万人と繋がって生まれたのだから、日本の若者を巻き込んで、この組織をしっかりとしたものにするれば、彼らの死は無駄にならない。そういう思いを持ってやり続けてきたのがジャパンハートです。

——軍政の下で状況が混乱している中、さらにミャンマー地震がありました。現状はどうなっているのでしょうか。





1995年に単身で活動を始めた当初、診察台は木の板だった。

現状は淡々と復興していますが、日本みたいな復興ではありません。政府の補助などないので、全部自分でやらないといけない。だから潰すものは潰す、直せる力がある人は直すというレベルです。だけど貧乏な人が大量に家屋を破壊されたわけではなく、レンガで建物を建てられるようなレベルの人たちが打撃を受けました。そうでない人は竹の家に住んでるから、すぐに建て直せます。

しかし、物流の途絶となると、被害を受けるのはやはり貧困層です。インフラを見ると橋が落ちたままとか、線路が断絶したままとか、高速道路が歪んでいるとか、流通の遮断はまだあります。ただ、地震の直接的な被害という点では、みんな

る。だから、治安が悪くなっても入っていきける。例えばコロナ禍で、現地の医者もいなくなり、病院はスカスカ、でも患者はいっぱい。残っている医者たちが困って、癌の子どもを手術してくれと僕の病院に言ってきた時があって、野戦病院みたいなところで手術しました。これは政府とだけくっ付いていたら成り立ちません。ミャンマーの人にとって、これはセーフティーネットでしょう。

1995年に医師免許を外国人で一人だけ取れたとされるのも彼らのおかげです。その時はサンガのトップに会いに行きました。保健省を動かすのは難しいのですが、サンガと繋がっている宗教省の事務次官みたいな人が動いてくれて、免許を保健省から取ってきてくれました。他の国からもたくさん来ていましたけど、他に免許を取れた人は一人もいなかったと聞いています。

そうやって、日本の遺族会と関わるお坊さんや、ミャンマーのサンガや宗教省の人が綱渡りみたいに繋がって、今の僕があって、結果的にものすごい数の人たちが医療を受けることができました。だから僕が存在は、そういう人たちなくしてはありえないんです。慰霊団から始まった原点を忘れて自分の名譽とか患者をただ見るだけに邁進した時、この組織はなくなっていくし、自分の存在も自己否定することになると思ってるので、生きてい

タフなんで、今やそんなに困っている感じではないですね。

ただ建物群の復興は日本と比べて圧倒的に遅く、医療の優先順位が低いです。被災したジャパンハートのワッチェ慈善病院はじめ、入ると危険な建物は国連がチェックしているんですが、他がどこまで関与して進んでいるかははっきりしません。今回は軍政の下で争っていますから、混乱するとそれに乗じて反乱軍も広がります。武器が運ばれると、その後の戦闘が激しくなります。それによって、病院に行く道が封鎖されて来られないとか、被害が広がりやすい状態になっています。12月に行われる選挙に合わせて、現地の混乱は増していくと言われています。

※復興状況は取材当時（25年10月）のものです。

—— ジャパンハートの活動の中でも具体的な困難はありますか。

地震直後から巡回診療をずっとしていました。だけど政府がもう止めなさいと言ったら止めないといけません。いつまでも続けていたら社会的には復旧していないことになるから、これで終わりというラインがあって、本当は続けた方がいいん

る限りやり遂げないといけないと思っています。

—— 日本の宗教界と縁の深い吉岡先生から見ると、今の仏教界への提言をお願いします。

日本で一番お坊さんを見てきた一人として思うのは、仏教ではすべてのものに命があると教える。なのに、日本の子どもも困っているのに、なぜ外国の子どもを助けるんだと言う人がいっぱいいるんです。そういう発言に対して仏教界は反対声明を出さないといけない。すべての命は同じだと。

人間は自己拡大するか自己縮小するかの二つの方向しかないと思います。戦時中、あれほど日本日本と言っていた人たちは、困ってきたら自分の家族だけになり、最後は自分だけに自己を縮小していく。例えば、特攻に若者を飛び立たせて自分が行かなかった年配者を醜いと思うでしょう。なぜかと言えば、ただ自分の命の温存ばかり頭にあるから。

でも自己拡大して、人の命も自分の命も同じだと思った時には、若者に生き残れと言ったと思うんです。人間は自己を縮小すれば、最後は自分だけになる。自己を国や社会全体に広げるほど、実は最後は自分を守るリスクヘッジになります。どちらかの方向しかないならば広げていくべきで

ですけど、全然できない状況です。また戦闘によってバスが走らなくなると、病院に来る手段がない人が多くいます。僕らは車があるのでこちらから行けるんですが、政府から許可が出ないという感じになっています。

—— 上座部仏教の方が多いミャンマーですが、仏教は人々の生活にどのように役立っていますか。

仏教は、彼らの生活そのものです。ミャンマーのトップの人がテレビでお坊さんにひざまづいて拜んだりする。カンボジアもラオスも一緒に、権威であり時に権力にもなっています。ミャンマーでは、お坊さんがお金集めて病院を作ったりして、それを政府はよくは思っていないけど、表立って邪魔もできないぐらいの力を持っています。それほど国民がお坊さんを信頼しています。

そういう国でお坊さんと連携しながらやってきました。確かに権力を振るいたがるお坊さんもありますけれど、僕が安い値段で医療をやることに何も言わないし、協力してほしいと言ったら協力してくれるし、ありがたい存在です。政府とやると、治安が悪化したら許可が出ません。でもお坊さんとだったら、お坊さんと僕の相談だけで可能にな

しょう。

だから、自己を縮小する方向の意見に対して仏教界は、悟った人は命は全部平等だと言う、だから対等に扱いなさいと説得していかないといけないと思います。それを繰り返すことによって宗教の力はこの国に蘇っていくでしょう。日本で宗教の力が弱まっている最大の理由は、それをしてこなかったからだと思います。

もう一つ言えるのは、開祖の言ったことを理解しようとするなら、開祖と同じレベルに立たないと無理だということです。例えば武道でも、技の術理は作った人と同じレベルに立たないと分かり



3月28日ミャンマー大地震の発災直後、外傷患者を屋外で処置する吉岡医師。



左から和田学英(本会事務総長)、茅野俊幸師(シヤンティ国際ボランティア会副会長)。
2025年10月9日、本会の救援基金から150万円をミャンマー地震に対する救援金として手交した。

シヤンティ国際ボランティア会は、曹洞宗東南アジア難民救済会議を前身として、1981年に設立されました。タイ国内のカンボジア難民キャンプでの移動図書館活動に始まった活動は、タイ・ラオス・カンボジア・ミャンマー、ネパール、アフガニスタン、そして日本国内にまで広がり、現地の言葉で書かれた学習教材の出版や学校建設、災害における緊急人道支援など、多岐にわたる活動を行っています。

ミャンマーでは、2014年から学校の環境改善事業、初等教育における読書推進事業、児童図書出版改善事業に取り組んでいます。また、ミャンマー内戦を逃れて、タイ側の国境地帯に住む人々のために、2000年から図書館の建設・運営や絵本の出版事業、伝統文化活動を進めてきました。

そうした長きにわたる活動から見えるミャンマーの今をお聞きます。

シヤンティ国際ボランティア会

——2025年3月28日に、ミャンマーで大規模な地震が発生しました。それから半年以上が経った現在、ミャンマーの状況はどのようなものでしょうか。

被害が大きかった地域がミャンマー国内の6つの地域に及んでいて、概ね国土の中西部で縦に長くなっています。支援を必要としている人は630万人と言われています。2021年にクイデータが発生して内戦状態になり、特に国境周辺地域や山岳地域では空爆が頻繁にあるので、国内避難民がたくさん発生していました。地震の被害の大きかったマンダレーやその北のザカインという地域は、そうした国内避難民が非常に多い地域で、もともと430万人ぐらいが人道支援を必要としていたのが、さらに200万人増えて、630万人ぐらいが地震の被害で二重苦になっている状況です。

死者数だと、5千人以上が先月段階で亡くなっています。インフラの破壊もすごく、マンダレーのような地震の被害が大きかった地域の大半の建物が損壊しています。私たちは教育にも力を入れて、学校の校舎の1800から2000ぐらいが

損壊ないし全壊になっていて、被災した先生や子どもは270万人ぐらいいると言われています。

キーワードは二重苦、三重苦です。国内の約半数が貧困ライン以下の生活を送っていると言われていて、今すぐ食糧支援がないと、生活が維持できませんでした。その中でさらに地震が起きてしまったので、状況は非常に深刻です。

——そのような中、シヤンティ国際ボランティア会では、どのような支援活動を行ったのでしょうか。

地震の発生直後、マンダレーとネピドーで緊急食料支援と緊急生活必需品の配布などを中心に行いました。皆さん、なにも持っていない状況です。そこで、単純にお米を配っても調理ができません。そこで、レディー・トゥー・イットと言われる、調理しないでも食べられるものを配るように心がけました。



小児がん手術などの高度医療を無償で提供している。

らは一生懸命治療します。しかし30年前と同じ患者たちを治療してるんです。少しは世の中変えたいと若い時は思ったけど、何も変わっていません。一生かけても僕らはこの人類の医療という大河の一滴でしかない。だけどその一滴にも誇りがあって、みんなが諦めたらこの大河は途絶えるんです。だけど、みんなが参加するこの流れの向こうに天才が現れて、医療を一気に進めてくれる未来が必ずあると信じてやっています。

それは宗教も一緒です。自分たちは悟れないかもしれない。しかし、悟りを目指して突き進んで自分たちが繋げた未来に、天才が現れて、世の中を幸せに一気に導いてくれる。自分たちがいないれば、それはもっと遠い未来になるかもしれない。そう信じてプロセスに参加しないとイケないと思います。

——最後にこれから目指すところを教えてください。

目指すところなんか全然なくて、いつも目の前の患者たちの期待に応えたい、今の自分には力がないから、それに応えていこうとキャッチアップしてきた人生で、それは続くと思います。

その時々を考えて何をすべきか選択している



加瀬 貴(かせ たかし)
海外緊急人道支援課 課長
千葉県出身。2004年に国際協力業界に就職し、2008年より日本ユネスコ協会連盟カンボジア事務所に勤務。その後、2011年に青年海外協力隊員としてカンボジアに赴任。2013年5月にシヤンティに入職。ラオス事務所所長、カンボジア事務所所長、事業サポート課課長を経て、2025年4月より現職。

ジャパンハートを支援する
(公式ホームページ)

<https://www.japanheart.org/>

ミャンマー地震の支援活動の今

生活必需品としては、直後に雨季が控えていて、発災後すぐも大雨が降ったこともあり、コレラなどの疾病の蔓延が懸念されていたので、石鹸などの衛生用品を中心に配りました。

またシャン州にはインレー湖という大きな湖があつて、伝統的に高床式の家屋に住む水上生活者がいます。そちらも甚大な被害が出て多くの家屋が倒壊しました。ですから、小規模ですが家屋の再建支援のために、木材などを提供しました。

発災直後に行ったのはこれら三つで、特に食料支援と生活支援を大きな規模で実施しております。



物資配布の様子

それから半年以上経ち、状況が変化していることと思います。

その後、問題になったのは仮設住宅が足りないということでした。現在進行形で、仮設住宅支援、シェルター支援、それと関連する物資の配布をマンダレーの都市の中心地で行っています。ここでは家を失った方々が、主に大きなお寺の敷地内に仮設住宅を建てて、そこで生活再建というか復興までの間、生活してもらう形で調整を進めています。

ただ緊急人道支援は一刻と情勢が変わるので、非常に難しい側面があります。というのも、仮設住宅



物資配布の様子

宅を大規模に展開して、家を失った人たちがそこに住めるようにする、というのは当初、ミャンマー政府も含めた国際社会の合意事項でした。しかし、今は仮設住宅で国内避難民が定住することに、政治的な意味合いもあつて規制が強くなっています。政府は、市の中心部の仮設住宅で長期的に住まわせるよりも、それぞれの地域に戻すことに力点を置き始めています。とはいえ、そこに住まざるを得ない人もいますので、住宅支援のニーズは依然として高いんですが、被災して都市部に逃れてきた人を被災地域に帰還させる状況も出てきています。これは地方行政も含めた大きな動きになっているので、私たちがその流れを止めることはできない現状です。だから、仮設住宅



仮設住宅の様子

の建設に加え、帰還する方々が帰還先で円滑に家屋の復興ができるように、ポリエステル製の防水布であるターポリンやプラスチックシート、大工道具などを



仮設住宅の様子

仮設住宅支援キットのような形にして配布する活動を今準備しています。これが今、マンダレー地域で行っている活動になります。

もう一つ準備を進めているのが、学校の再建支援です。先ほど申し上げたとおり、数千校の学校が被災していて、例えば大規模な小学校の場合、敷地内に3つ校舎があつて、そのうち1つ倒壊、2つは半壊ということもあります。その場合、全壊した校舎は使えないので、そこで学んでいた子どもたちは半壊した校舎を使わなければいけません。そうすると大きな課題が2つ生まれます。1つは耐久的な問題で、危険な状況下で学ばざるを得ない。もう1つは教室の数が足りないので過密

状態になるということです。この状況をなんとか改善したいという思いがあります。そこで、全壊した校舎の建設に合わせて、半壊した校舎の修復工事支援も行っていければという形で、調整している最中です。

先ほどおっしゃっていた政府の方針の変化など、軍政のもとで活動することで注意していることはあります。

ミャンマーでこういった活動をすること自体が非常に難しい現状があります。ただ私たちとしては、真に困っている人、困窮している被災者に支援を届けることが第一の目的です。今回は、軍に与しないかどろかに細心の注意を払いながら、現地に根差して活動を長く展開しているミャンマーの団体と提携することによって、直接人々に支援を届けることができました。

日本の皆さんからは、本当に軍に何も渡っていないのか聞かれることがあります。確かに軍政の許可がないと実施ができないことは事実ですが、私たちとしては、人道原則、つまり中立性・公平性・独立性などがすべての活動の柱になるので、特定のグループ、この場合は軍政には与せず、最も必要な人に届けることが大事という人道原則に沿う

こと。また我々もミャンマーで比較的長く活動していますので、地域の有力者とは連携できる関係があります。そのような、これまで培ってきた経験や蓄積を使って、事業を円滑に実施することを心がけました。

タイとの国境地帯に住む避難民の状況はいかがでしょうか。


近隣諸国への国外避難民が20万人ぐらいいると言われている中で、タイに逃げた方々の一部が国境にある難民キャンプに流入していて、タイはこれを公式には認めないのですが、もともと7万人ぐらいだったのが今は10万人超えているぐらいには増えているのが現状です。私たちがタイ国内で難民の方々の支援活動の調査に現地に入っているんですけど、ミャンマー国内から逃げてきた方が多いです。

シャンティ国際ボランティア会は曹洞宗東南アジア難民救済会議を母体としています。実際の活動の中で、仏教的な思想はどのように反映されているのでしょうか。

今は仏教団体ではないんですが、仏教が持つ人生の哲学的な意味は、支援活動の中でも非常に良

新年お慶び申しあげます



管長 長谷部 真道
 宗務総長 今川 泰伸
 総務部長 近藤 本淳
 執務部長 桐生 俊雅
 国際学部長 和 友伸
 法務部長 後藤 友栄
 財政部長 津田 哲哉
 管財部長 藪 邦彦
 執務公室長 岸本 優宏
 信託局長 藤本 善光
 社会人権局長 小牟田 昌彦
 国際局長代理 小牟田 昌彦
 宗務局長 酒井 憲照
 宗務局長 大森 照龍
 加藤 維那 東山 教清
 高野別院主監 永崎 亮寛
 高野別院主監 柏田 良辯
 京都別院主監
 〒648 0294 和歌山県伊都郡高野町高野山一三二
 TEL 0736(56)2011
 FAX 0736(56)4640



高野山真言宗 総本山金剛峯寺

新年お慶び申しあげます



管長 南澤 道人
 宗務総長 服部 秀世
 参議 藤井 浩宗
 参議 渡邊 義弘
 教学部長 深川 典雄
 人事部長 喜美候部 謙史
 教化部長 藏山 大顕
 伝道部長 高橋 英寛
 総務部長 圓通 良樹
 出版部長 伊藤 弘隆
 財政部長 服部 直哉
 東京都港区芝二一五一
 〒105 8544 〇三三四五五五二
<https://www.solozen-net.or.jp/>

曹洞宗宗務庁


管長 山川 宗玄
 宗務総長 野口 善敬
 総務部長(兼) 真常 紹天
 教学部長 岩浅 慎龍
 財務部長 羽賀 浩規
 花園会 小川 太喜
 本部会長 柴山 昌実
 法務部長
 〒616 8034 京都市右京区花園木辻北町一
 TEL 〇七五(四六三)三二二
<https://www.amyoshinji.or.jp/>

 興祖微妙大師
 650年
 遠禪大法会

臨濟宗妙心寺派宗務本所

総長 園城 義孝
 総務 桑羽 隆慈
 総務 竹田 空尊
 総務 松原 功人
 副総務 清岡 大地
 副総務 森 真仁
 〒600 8501 京都市下京区堀川通花屋町下る
 浄土真宗本願寺派 宗務所
 TEL 〇七五(三七七)五一八一
 FAX 〇七五(三五)一三七二
<https://www.hongwanji.or.jp/>

浄土真宗本願寺派



天台座主 藤 光賢
 宗務総長 細野 舜海
 参務部長 坂本 圭司
 参務部長 四竈 亮真
 参務部長 大角 実豊
 参務部長 村田 庸田
 参務部長 原 徳明
 参務部長 荒樋 勝善
 〒520 0113 大津市坂本四丁目六番二号
 TEL 〇七七(五七九)〇〇二二
 FAX 〇七七(五七九)二五一六
<https://www.tendai.or.jp/>


天台宗

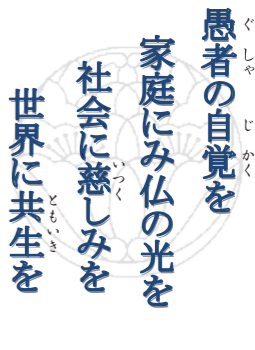
宗務総長 木越 涉
 参務 古賀 堅志
 参務 長峯 顕教
 参務 佐々木 高
 参務 轡田 普善
 参務 山田 孝彦
 〒600 8505 京都市下京区烏丸通七条上る
 常葉町七五四
 TEL 〇七五(三七七)九一八一
<https://www.higashihonganji.or.jp/>

真宗大谷派



管長 吉田 宏哲
 宗務総長 三神 栄法
 総務部長 久保田 剛士
 教学部長 金子 隆昭
 教化部長 荒井 真道
 法務部長 足田 精栄
 財務部長 杉本 栄次
 宗務出張所長 宮田 隆伸
 〒605 0951 京都市東山区東大路七条下ル
 東瓦町九六四
 TEL 〇七五(五四一)五三六一
<https://chisan.or.jp/>

真言宗智山派宗務庁 総本山智積院

浄土宗 職員一同
 浄土宗宗務庁
 〒605 0062 京都市東山区林下町四〇〇、八
 TEL 〇七五(五二五)二二〇〇
 FAX 〇七五(五三一)五一〇五
 〒105 0011 東京都港区芝公園四、七、四
 TEL 〇三(三四三六)三三五一
 FAX 〇三(三四三四)〇七四四
<https://jodo.or.jp/>


浄土宗

管長 川俣 海淳
 宗務総長 川田 興聖
 総務部長 吉田 真澄
 教化部長 小林 政彦
 教務部長 川城 孝道
 財務部長 藤原 静海
 教化センター長 島本 誠永
 真言宗豊山派 総合研究院長 中川 祐聖
 〒112 0012 東京都文京区大塚五丁目四〇八号
 真言宗豊山派宗務所
 TEL 〇三(三九四五)〇六三九
<https://www.duzan.or.jp/>

真言宗豊山派宗務所

日蓮宗
 宗務総長 光岡 潮慶
 伝道局長 池田 順覚
 総務局長 川久保 光隆
 伝道部長 鶏内 泰寛
 教務部長 綿谷 即俊
 総務部長 釋 英義
 財務部長 小泉 輝泰
 宗務総長室長 垣本 良明
 現代宗教研究所長 赤堀 正明
 日蓮新聞社社長 松本 恵行
 参 与 鈴木 春雄
 参 与 吉塚 誠滋
 日蓮宗宗務院
 〒146 8544 東京都大田区池上一、三二、一五
 TEL 〇三(三七五一)七一八一
 FAX 〇三(三七五一)七一八六
<https://www.nichinen.or.jp/>

日蓮宗

新年お慶び申しあげます



融通念佛宗
総本山大念佛寺

管 長 吉村 暲英

宗務総長 田中 瑞修
寺務総長

教学部長 沢田 善秀
法務部長

庶務部長 好野 良博

財務部長 佐々木 智祥
会計部長

〒547-0045 大阪市平野区平野上町一七二六
TEL 〇六(六七九)〇〇二六
FAX 〇六(六七九)三〇五〇
<http://www.dainenbutsuji.com>

法華宗(本門流)

管 長 久保木 日將

宗務総長 平田 義生
教学部長 三浦 和浩
布教部長 鏡 光隆
総務部長 清水 法光
財務部長 田中 庸修
企画部長 久野 晃秀

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二一九一
TEL 〇三(五六一四)三〇五五
FAX 〇三(五六一四)三〇五六
<http://www.hokkeshu.or.jp>



法華宗(陣門流)

管 長 鈴木 日慧

宗務総長 西山 英仁
総務部長 牧野 秀成
企画部長 金原 孝宜
財務部長 西山 聡達
教学部長 布施 義高
教化部長 松吉 慶憲
宗務参事 田中 隆寛
宗務参事 田内 孝照
宗務参事 竹内 敬雅

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨五三五六
TEL 〇三(三九一八七)二九〇
FAX 〇三(三九一八七)二九一
<http://www.shitennoji.or.jp>

顕本法華宗

管 長 奥村 日拝

宗務総長 秋葉 敬真
宗務次長 津村 乘信
庶務部長 秋山 事遷
布教部長 川崎 英真
社会部長 中村 文治
財務部長 島田 誠岳
教務部長 藤崎 裕学

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九十一
TEL 〇七五(七九)七一七一
FAX 〇七五(七九)七二六七
顕本法華宗宗務院
総本山妙満寺内

一般財団法人
埼玉県佛教会

会 長 加藤 玄静

副会長 山口 正純
同 河野 亮玄
専務理事 深谷 雅良
常務理事 馬場 知行
同 井倉 賢照
同 穂積 容山
同 真島 亮悟
事務局 金子 嘉広

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂四三三十八
TEL 〇四八(八六一)二一三八
FAX 〇四八(八六一)六六四九

新年お慶び申しあげます



天台真盛宗
総本山西教寺

管 首 武田 圓寵

宗務総長 市川 隆成
執事 長

教学部長 兼子 鐵秀
社会部長 西澤 義宏
財務部長 橋爪 真全
庶務部長 鈴木 康之

〒520-0113 滋賀県大津市坂本五・三一
TEL 〇七七(五七八)〇〇一三
FAX 〇七七(五七八)三四一八

天台寺門宗

管 長 村上 法照

宗務総長 明石 清澄
教学部長 小林 慶明
財務部長 川合 弘曜
修験道部長 秋田 幸輝
庶務部長 加藤 明信
録 事 三島 宗覚

〒520-0036 滋賀県大津市園城寺町二四六
TEL 〇七七(五二二)五一〇
FAX 〇七七(五二二)五一二八

大日本佛法最初
和宗総本山四天王寺

管 長 瀧藤 尊淳

副管 長 南谷 惠敬

執事 長 塚原 昭應
四天王寺学園理事長
四天王寺福祉事業団理事長
法務部長 吉田 明良
総務部・参詣部 山岡 武明
総務部長 参詣部長
学校教育部 坂本 峰徳
四天王寺学園 常務理事
学校教育部 森田 惇朗
四天王寺学園 常務理事
社会福祉部 廣瀬 善重
四天王寺福祉事業団 常務理事
社会福祉部 新井 順證
四天王寺福祉事業団 常務理事

〒543-0051 大阪府大阪市天王寺区四天王寺一丁目十一番十八号
TEL 〇六(六七七)〇〇六六
FAX 〇六(六七七)四九二一
<http://www.shitennoji.or.jp>

総本山仁和寺
真言宗御室派

管 門 長 瀨川 大秀

執行 長 大林 實温
宗務 総 長 大林 實温
執行 部長 牟田 清樹
執行 部長 橋本 高諄
執行 部長 松永 真和

〒616-8092 京都市右京区御室大内三三
TEL 〇七五(四六一)一一五五
FAX 〇七五(四六一)四〇七〇
<http://www.ninaiji.jp>

真言宗醍醐派宗務本庁
総本山醍醐寺寺務所

座 主 長 壁瀬 宥雅

宗務 総 長 大原 弘敬
執行 部長 田中 祐考
総務 部 長 田中 祐考
教学 部 長 浦郷 宜右
財務 部 長 宮野 隆聖

〒610-1325 京都市伏見区醍醐東大路町二二
TEL 〇七五(五七二)〇〇〇二
FAX 〇七五(五七二)〇一〇一
<http://www.daijoi.or.jp>

新年お慶び申しあげます



愛媛県仏教会

会長 佐々木善康
 副会長 谷川龍玄
 副会長 武山寛仁
 監事 岡本好司
 監事 岩坂光祥
 顧問 齋藤友蔵
 顧問 山崎忠司
 顧問 藤橋泰宣
 事務局 福家良仁
 書記 瀬川寛清

〒799 1314 愛媛県西条市河之内甲四四七-一 聖王院内
 TEL 〇八九八(六六) 二二六四
 FAX 〇八九八(三五) 〇五〇八

岡山県佛教会

会長 石原伸俊
 副会長 北山孝治
 同 中村栄恭
 同 池上仁海
 事務局 大畠博道

〒710 0012 岡山県倉敷市鳥羽三九〇
 TEL 〇八六(四六二) 二三四六

新年お慶び申しあげます



本門佛立宗 本山宥清寺

講 有 木村 日覚
 宗務総長 亀井 日魁

本山宥清寺
 〒602 8336 京都市上京区一乗通七本松西入る
 滝ヶ鼻町一〇〇五番地一
 TEL 〇七五(四六三) 四六二〇(代)
 FAX 〇七五(四六三) 四六五一
 本門佛立宗 宗務本庁
 〒602 8377 京都市上京区御通一乗上る
 東堅町一〇番地
 TEL 〇七五(四六一) 一一六六(代)
 FAX 〇七五(四六四) 五五九九
 京都佛立ミュージアム
 TEL 〇七五(二八八) 三三四四
 URL <https://www.hbmuseum.jp>

法華宗(真門流)

管 長 上田 日猷
 宗務総長 堀内 浩善
 総務部長 堀 雅博
 教学部長 峰尾 泉榮
 教化部長 舟積 法宏
 社会部長 木村 良勢
 財務部長 水野 智悠

〒602 8447 京都市上京区智恵光院通五辻上る
 紋屋町三三〇
 TEL 〇七五(四四一) 五七六二
 FAX 〇七五(四四一) 五六六六
<http://www.hokkeshu.jp/>

公益財団法人 仏教伝道協会

理事長 木村 清孝
 理事 沼田 恵明
 理事 松丸 壽雄
 理事 生田 忠士
 理事 入澤 崇
 理事 石井 清純
 理事 横田 南嶺
 理事 松村 純章
 理事 西本 照真

〒108 0014 東京都港区芝四丁目三、一四
 TEL 〇三(三四五五) 五八五一
 FAX 〇三(三七九八) 二七五八
<https://www.bdk.or.jp>

公益社団法人 全日本仏教婦人連盟

会長 東伏見具子
 副会長 加用 稔子
 同 吉田 真理
 理事長 本多 端子

〒151 0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷
 四、五、十一、二〇五
 TEL 〇三(五七七二) 〇六七七
 FAX 〇三(六四三四) 〇一八四
<https://jfwf.jp>
 Email: info@jfwf.jp

青森県仏教会

会長 築田 成義
 監事 葛原 隆男
 監事 和泉 順生
 事務局 中谷 正幸
 事務局 鷹背 観道
 計 若狭谷 良行

〒039 3212 青森県上北郡六ヶ所村尾駱野野附三九四
 TEL 〇一七五(七二) 二一六八
 FAX 〇一七五(七二) 二一九四

真言律宗 総本山西大寺

真言律宗管長 松村 隆誉
 総本山西大寺長老
 執事 辻村 泰範

〒631 0825 奈良市西大寺芝町一丁目一〇五
 TEL 〇七四二(四五) 四七〇〇
 FAX 〇七四二(四五) 四七二〇

全日本仏教青年会

理事長 来馬 司龍
 事務局 菊池 重忠

〒108 0014 東京都港区芝四丁目三、一四
 TEL 〇三(三四五五) 五八五一
 FAX 〇三(三七九八) 二七五八
<https://www.nakayamaden.or.jp>

ブツダガヤ 印度山日本寺

日本寺管主 北河原 公敬
 理事長 中村 康雅
 事務総長 逸見 道郎

〒153 0061 東京都目黒区中目黒五二四・五三
 TEL 〇三(三七一一) 七六〇八

茨城県仏教会

会長 井上 光基
 副会長 黒澤 彰哉
 副会長 徳永 光由
 副会長 奥田 俊裕
 副会長 湯澤 宥広
 事務局 渡邊 真也

〒311 4333 茨城県東茨城郡城里町高根一八
 大山寺内
 TEL 〇二九(二八九) 二〇九〇
 FAX 〇二九(二八九) 二〇四八
<https://www.ibarakibukkyou.com/>

福島県仏教会

会長 秋山 孝雄
 専務理事 三瓶 信晃
 事務局 熊田 秀海
 広報 佐藤 教順
 会計 高柴 清二
 庶務 大竹 信仁

〒963 0201 福島県郡山市大槻町字上町七
 長泉寺内
 TEL 〇二四(九五二) 一六二八

一般社団法人 仏教情報センター

理事長 平井 良昌
 副理事長 本間 孝継
 副理事長 石川 隆信

〒113 0033 東京都文京区本郷一四・一六・二〇二
 TEL 〇三(三八一三) 六五七七
 FAX 〇三(三八一三) 六七九四

一般社団法人 日本仏教鑽仰会

代表理事 中山 斉栄

〒174 0041 東京都板橋区舟渡四・十五・一
 TEL 〇三(三九六七) 三二八八
<https://bukkyo-seminar.jp>
info@bukkyo-seminar.jp

山梨県仏教会

会長 武田 智宏
 副会長 清雲 俊雄
 〃 河口 智範
 顧問 千野 宗雄

〒409 3612 山梨県西八代郡市川三郷町
 上野四三〇八 光勝寺内
 TEL 〇五五(二七二) 〇八七七
 FAX 〇五五(二七二) 〇八七七

東京都仏教連合会

会長 小澤 憲珠
 理事長 三吉 廣明

〒111 0036 東京都台東区松が谷二、十九、七
 涼源寺内
 TEL 〇三(三八四四) 九五九七
 FAX 〇三(三八四四) 三一七七

大阪府佛教会

会長 村山 廣甫
 副会長 塚原 昭應
 同 森 快隆
 同 清澤 悟
 同 吉村 常妙
 同 立石 泰教
 同 榎原 清了
 同 井桁 雄弘
 顧問 二上 寛弘
 事務局 二上 寛弘

〒552 0021 大阪府港区築港一三三三 釋迦院内
 TEL 〇六(六五七) 一五七一〇

滋賀県仏教会

会長 福家 俊彦

〒520 0036 滋賀県大津市園城寺町二四六
 総本山園城寺内
 TEL 〇七七(五二二) 二二三八
 FAX 〇七七(五二二) 二二二一

新年お慶び申しあげます



賛助会員

【団体会員】

- 京セラ株式会社(電子機器製造)
- 株式会社カナメ(建築)
- 大建工業株式会社 国内製造企画部(建築)
- 松井建設株式会社(建設)
- 住友林業株式会社(住宅・建築事業)
- 損害保険ジャパン株式会社(保険)
- 第一生命保険株式会社(保険)
- 株式会社ルンビニ(保険代理店)
- SOTO保険サポート株式会社(保険)
- 大和証券株式会社 法人コンサルティング部(ビジネスサポート)
- 野村證券株式会社 金融公共公益法人部(金融)
- 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 本店金融公共法第一部(金融)
- 株式会社ストライク(M&A仲介)
- 株式会社大陸旅遊(旅行)
- 近畿日本ツーリスト株式会社(旅行)
- 東武トップツアーズ株式会社(旅行)
- 株式会社JTB ツーリズム事業本部(旅行)
- 株式会社金剛組(寺院建築)
- 日本テンブルヴァン株式会社(寺院経営コンサルタント)
- 株式会社TERASU(寺院サポートコンサルティング)
- 株式会社アンカレッジ(寺院運営サポート・企画)
- 有限会社新宿アカウンティングオフィス(経営コンサルティング)
- 株式会社社縁(社寺仏閣総合リスクコンサルタント)
- Sinfinity株式会社(社寺仏閣の総合経営支援)
- 株式会社AVENUE(お寺の窓口運営・WEB制作)
- 株式会社TERATECH(お寺の窓口運営・WEB制作)
- 株式会社366(樹木葬開発・お寺コンサルティング)
- 株式会社シェアウィング(お寺コンサルティング)
- 株式会社セキリティハウス(防犯)
- グレートインフォメーション株式会社(システム開発運営・WEB制作)

- 株式会社東海大阪レンタル(イベント・レンタル)
- 株式会社エコ・マイニング(環境・エネルギー)
- 株式会社オメガ・コミュニケーションズ(翻訳・出版物企画・制作)
- 株式会社ディー・エイ・ティ・コーポレーション(出版物企画・制作)
- ディーエムソリューションズ株式会社(物流・デザイン)
- 新日本法規出版株式会社(法規図書出版)
- 株式会社広済堂ネクス(印刷・IT・WEB・求人広告・人材サービス)
- キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社(印刷・機器販売)
- 三協美術印刷株式会社(写植・製版)
- 株式会社漫画家学会(漫画・紙芝居)
- 株式会社サウンドファン(音のバリアフリー開発・製造・販売)
- 株式会社大塚商会(システム機器、ソフトウェアの販売)
- 株式会社京念珠刑部(念珠製造・販売)
- 株式会社京扇堂(扇子製造・販売)
- 株式会社漫画家学会(漫画・紙芝居)
- 株式会社サウインドファン(音のバリアフリー開発・製造・販売)
- 株式会社大塚商会(システム機器、ソフトウェアの販売)
- 株式会社京念珠刑部(念珠製造・販売)
- 株式会社京扇堂(扇子製造・販売)
- 株式会社小堀(仏壇仏具製造・販売)
- 株式会社若林工芸舎(文化財保存修理)
- 株式会社公益社(葬祭)
- 株式会社タイセイ(石材)
- 三信電気株式会社(IT総合)
- 株式会社アドレスジミキ(オフィス機器販売)
- 株式会社いせや(石材)
- 株式会社おぎそ(高強度磁器食器の製造・販売)
- TERA Energy株式会社(小売電力)
- 株式会社鎌倉新書(終活支援)
- 株式会社オフィスワイズ(プロモーション企画)
- イワトリー株式会社 みのはん(寺院向け業務用品通信販売)
- 株式会社エータイ(永代供養・樹木葬)
- 株式会社セルフネン(建築材料)
- 株式会社ドリム(音響機器の製造・販売)
- 日本ライフライン株式会社(医療機器)
- 日本仏教看護・ビハラー学会
- 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所

- 一般財団法人ライフプランニングセンター
- 一般財団法人100万人のクラシックライブ
- 一般社団法人LOS相談センター
- 一般社団法人PRRAY for ONE
- 一般社団法人良いお寺研究会
- 特定非営利活動法人ジャパンハート
- 全日本宗教学協会
- 全日本葬祭業協同組合
- 岩手県葬祭業協同組合
- 埼玉県葬祭業協同組合
- 東京都葬祭業協同組合
- 神奈川県葬祭業協同組合
- 岐阜県葬祭業協同組合
- 名古屋葬祭業協同組合
- 愛知県葬祭業協同組合
- 京都中央葬祭業協同組合
- 大阪葬祭業協同組合
- 福岡県葬祭業協同組合
- 長崎県葬祭業協同組合
- 一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会
- 一般社団法人日本石材産業協会
- 准秩父観音霊場三十四札所

新年お慶び申しあげます



- 孝道教団
- 妙見宗
- 新義真言宗
- 真言宗善通寺派
- 真言宗山階派
- 真言宗泉涌寺派
- 真言宗国分寺派
- 信貴山真言宗
- 真言宗大鳴派
- 浄土宗西山禅林寺派
- 浄土宗西山深草派
- 真宗高田派
- 真宗佛光寺派
- 真宗興正派
- 真宗木辺派
- 臨済宗円覚寺派
- 臨済宗建長寺派
- 臨済宗天龍寺派
- 臨済宗東福寺派
- 本門法華宗
- 法相宗
- 聖徳宗
- 華嚴宗
- 律宗
- 北海道仏教会連盟
- 岩手県仏教会
- 栃木県仏教会
- 群馬県仏教連合会
- 千葉県仏教会
- 神奈川県仏教会
- 新潟県仏教会
- 石川県仏教会

- 福井県仏教会
- 長野県仏教会
- 岐阜県仏教会
- 静岡県仏教会
- (一財)京都仏教会
- 兵庫県仏教会
- 和歌山県仏教会
- 鳥取県仏教連合会
- 島根県仏教会
- (一社)徳島県仏教会
- 香川県仏教会
- 高知県仏教会
- 福岡県仏教連合会
- 長崎県仏教連合会
- 熊本県仏教会
- 宮崎県仏教連合会
- 沖縄県仏教会
- 東京ブディストクラブ
- 日韓仏教交流協議会

賛助会員

【特別会員】

- 大本山東福寺 原田 融道
- 蓮華院誕生寺 川原 英照
- 尾道仏教会 小林 暢善
- 實相山中央寺 熊谷 忠興
- 信州善光寺 若麻績享則
- 一般社団法人仙台仏教会 都築 幸三
- 壺阪山南法華寺 常盤 勝範
- 築地本願寺
- 気仙沼仏教会 千田 雅寛

新年お慶び申しあげます



【個人会員】

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|------------|
| 社本 公一(公認会計士) | 龍泉寺 佐々木 誠宗(秋田県) | 護勢寺 菅原 公宇(宮城県) | 福聚院 伊達 廣三(宮城県) | 慈願寺 池田 行信(栃木県) | 東榮寺 大森 篤史(埼玉県) | 法瑠寺 矢島 浄純(埼玉県) | 金澤寺 宮寺 守正(埼玉県) | 建福寺 安野 正樹(埼玉県) | 光明寺 石上 智康(千葉県) | 報土寺 朝倉 俊隆(東京都) | 妙定院 小林 正道(東京都) | 浄心寺 佐藤 雅彦(東京都) | 真照寺 堀井 隆川(東京都) | 長専院 正本 光生(東京都) | 廣徳寺 板坂 光明(神奈川県) | 清水寺 久喜 和裕(神奈川県) | 大蔵寺 佐藤 直道(神奈川県) | 金蔵院 眞田 有快(神奈川県) | 龍泉寺 壽山 良光(神奈川県) | 圓満寺 西郊 良光(神奈川県) | 正泉寺 野澤 隆幸(神奈川県) | 實相院 東田 樹治(神奈川県) | 重蓮寺 関崎 幸孝(新潟県) | 法元寺 鈴木 義俊(山梨県) | 玄向寺 荻須 眞教(長野県) | 本光寺 木村 光正(静岡県) | 観音寺 石原 峰志(愛知県) | 寂光院 松平 實胤(愛知県) | |
| 太福寺 佐久間 大道(兵庫県) | 善隆寺 杉浦 栄俊(兵庫県) | 吉祥院 曾我 龍慶(兵庫県) | 洞光寺 池上 幸秀(島根県) | 薬師院 小川 義真(島根県) | 永昌寺 門脇 直哉(島根県) | 定林寺 田邊 学成(岡山県) | 西光寺 高橋 篤法(大分県) | 其田 寿一(青森県) | 渡邊 永(宮城県) | 小田 卓也(千葉県) | 鈴木 朝雄(千葉県) | 小川 昌美(東京都) | 北野 譲治(東京都) | 小林 昇(東京都) | 平 みきお(東京都) | 鈴木 謙太(東京都) | 鳥居 邦夫(東京都) | 松村 一平(東京都) | 村松 朱実(東京都) | 天久保 貴(神奈川県) | 大谷 喜代司(神奈川県) | 君和田 茂男(神奈川県) | 木村 匡成(神奈川県) | 佐藤 泰之(神奈川県) | 中村 美津江(神奈川県) | 松田 健(神奈川県) | 山崎 忠征(和歌山県) | 安田 容造(京都府) | 邊見 由峰(香川県) |
| 乗松 奈津子(愛媛県) | 山口 展弘(宮城県) | 井上 美和子(佐賀県) | 塩月 光夫(宮城県) | 逢沢 一郎(衆議院議員) | 石田 真敏(衆議院議員) | 岩屋 毅(衆議院議員) | 枝野 幸男(衆議院議員) | 大串 博志(衆議院議員) | 逢坂 誠二(衆議院議員) | 加藤 勝信(衆議院議員) | 金子 恭之(衆議院議員) | 上川 陽子(衆議院議員) | 後藤 茂之(衆議院議員) | 小山 展弘(衆議院議員) | 櫻井 周(衆議院議員) | 佐藤 公治(衆議院議員) | 関 芳弘(衆議院議員) | 高市 早苗(衆議院議員) | 原口 一博(衆議院議員) | 平沢 勝栄(衆議院議員) | 堀内 詔子(衆議院議員) | 前原 誠司(衆議院議員) | 牧島 かれん(衆議院議員) | 松木 謙公(衆議院議員) | 松田 功(衆議院議員) | 松本 剛明(衆議院議員) | 森山 浩行(衆議院議員) | 浅尾 慶一郎(参議院議員) | |
| 伊藤 孝恵(参議院議員) | 片山 さつき(参議院議員) | 片山 大介(参議院議員) | 斎藤 嘉隆(参議院議員) | 徳永 エリ(参議院議員) | 福山 哲郎(参議院議員) | 水岡 俊一(参議院議員) | 大野 元裕(埼玉県知事) | 早坂 義弘(東京都議会議員) | 荒井 聰(元衆議院議員) | 大塚 高司(元衆議院議員) | 河村 建夫(元衆議院議員) | 小島 敏文(元衆議院議員) | 左藤 章(元衆議院議員) | 佐藤 ゆかり(元衆議院議員) | 野田 毅(元衆議院議員) | 橋本 岳(元衆議院議員) | 細田 健一(元衆議院議員) | 三原 朝彦(元衆議院議員) | 盛山 正仁(元衆議院議員) | 湯原 俊二(元衆議院議員) | 大塚 耕平(元衆議院議員) | 鈴木 寛(元参議院議員) | 鈴木 政二(元参議院議員) | 武見 敬三(元参議院議員) | 二之湯 智(元参議院議員) | 白 貞勲(元参議院議員) | 藤谷 光信(元参議院議員) | (令和7年12月現在) | |

(公財)全日本仏教会

第37期会長・副会長が決定

令和7年11月20日に開催した第49回理事会において、本会第37期会長・副会長を次の通り決定いたしました。伝統仏教界の象徴として、国内外問わず、様々な場で日本仏教を発信してまいります。

任期：令和8年4月1日から2年間

詳細なプロフィールは本会Webサイトより参照ください

第37期会長

持田 日勇

(もちだ にちゆう)

日蓮宗



第37期副会長

武田 圓寵

(たけだ えんちゆう)
天台真盛宗



第37期副会長

沢田 教英

(さわだ きょうえい)
西山浄土宗



第37期副会長

松村 隆誉

(まつむら りゅうよ)
真言律宗



第37期副会長

小澤 憲珠

(おざわ けんじゆ)
東京都仏教連合会



第37期副会長

山下 俊茂

(やました しゅんも)
福岡県仏教連合会



第37期副会長

東伏見 具子

(ひがしふしみ ともこ)
公益財団法人 全日本仏教婦人連盟



第36期第5回国際交流審議会

日時：令和7年10月13日13時
 会場：京都佛立ミュージアム
 諮問：「SDGs(気候変動・難民問題・ジェンダー平等について)」
 出席委員：15名中8名

- 藤澤理映(浄土真宗本願寺派)
- 大島啓慈(日蓮宗)
- 松山大耕(臨済宗妙心寺派)
- 久野晃秀(法華宗(本門流))
- 長松清潤(本門佛立宗)
- 日比野郁皓(学識経験者)
- 枝木美香(学識経験者)
- 西永亜紀子(学識経験者)
- 出席理事：
 - 岡野正純(孝道教団)
 - 花岡眞理子(公社)全日本仏教婦人連盟)

【概要】

第5回目の国際交流審議会が、本門佛立宗の京都佛立ミュージアムで開催されました。今回は録画をしながらの審議会となりました。各宗派や各団体が環境や難民問題、ジェンダー等、SDGsにつ

いて日々取り組んでいることを話し合い共有しました。

環境問題については各宗派が活動を環境負荷の少ない形に変え、環境保全に取り組んでいることが報告されました。

難民問題については、難民を生み出すような分断されていく国際情勢の中で、我々仏教者は何ができるのか話し合われました。

ジェンダーについては男女の平等や、様々な性の在り方を認める方策が示されました。

気候変動、難民問題、ジェンダー、これらはまた全て人権問題です。環境が悪化すれば、貧困等弱い立場の方の住環境がまず犠牲となり、戦争が起されれば武器を持たない一般の人が難民となり、無自覚な慣習などによって、性差の平等が奪われLGBTQと言った性的マイノリティーの人の尊厳が失われます。弱い立場に追いやられ人権を侵害されている方に対し共感を持ち救いの手を差し伸べるということが、仏教者には必要であるという意見で纏まりました。当日は生憎の寒空でしたが、いつもにも増した熱のこもった審議会となりました。

第7回法人創立70周年記念事業実行委員会

日時：令和7年10月14日14時
 会場：本会会議室(オンライン併用)
 出席委員：

- 和田学英(事務総長)
- 伊藤道仁(曹洞宗)
- 渡邊弘文(浄土真宗本願寺派)
- 石井正道(真宗大谷派)
- 西 央成(浄土宗)
- 坂詰秀正(日蓮宗)
- 井上聖憲(高野山真言宗)
- 並木泰淳(臨済宗妙心寺派)
- 平野哲央(真言宗智山派)
- 茶円有勝(島根県仏教会)
- 小川淳詩(公財)仏教伝道協会)
- 堀池友絢(学識経験者)
- 加藤京子(学識経験者)
- 村瀬友洋(学識経験者)

【概要】

定刻になり開会。和田学英委員長の発声にて三帰依文を唱和、続き、挨拶。委員長が議長となり検討事項に入りました。事務局より現況報告の後、検討課題について委員間にて意見を交換

し、検討事項については一部を決定し、その他事項については部会において引き続き検討を重ねることとしました。

第36期第6回社会・人権審議会

日時：令和7年10月20日14時
 会場：本会会議室(オンライン併用)
 出席委員：

- 濱田智祥(曹洞宗)【委員代理】
- 岡田光恵(浄土真宗本願寺派)
- 徳永誠(真宗大谷派)
- 村松雄道(浄土宗)【委員代理】
- 藤本善光(高野山真言宗)
- 谷明生(臨済宗妙心寺派)
- 小林政彦(真言宗豊山派)
- 株橋隆真(法華宗(本門流))
- 参加理事：
 - 戸松義晴(浄土宗)
 - 長澤香静(一財)京都仏教会)
 - オプザーバー：
 - 長谷川正浩(本会顧問弁護士)
 - 大島義則(本会顧問弁護士)

【概要】

三帰依文を唱和の後、谷明生委員長の進行により、「諮問①首相及び閣僚の

第9回花まつりデザイン大賞発表！

ポスター大賞作品



「笑顔につつまれて」

松田 いま子さん

【コメント】
 お釈迦様のお誕生を大勢の子どもたちが、笑顔でお祝いする様子をイメージしました。
 青は地球、7人の子どもは7大陸(世界)を表わし、全ての人々が笑顔になれる様、願いを込めました。

ポスター大賞作品

(満12歳以下)



「雲に咲く花まつり」

田中 桜望さん

【コメント】
 自然や生き物、人と人が世界が平和になるようにとこめました。

絵はがき大賞作品

「蓮のうへの仏様」

内藤 芽依さん

【コメント】
 私の中で甘茶と蓮の花の色がピンク色だったのでピンクを中心に描きました。色を何色かにわけて色を塗りました。



「誕生」

吉田 衣吹さん

【コメント】
 お釈迦様が誕生された時の様子をやさしいイメージで描きました。
 お釈迦様の前世、多くの動物の中の鹿、花々、天から注がれた清浄の水がお釈迦様を包み込み見守っています。
 七歩歩かれた後にも、花が咲きお誕生をお祝っています。



受賞されたみなさま、おめでとうございます。頒布・配布については巻末をご覧ください。

靖国神社公式参拝中止要請」、「諮問②
仏教者として死刑についてどう考える
か」、「諮問③『過去帳』等の取扱につ
いて」の答申に向けた審議をしました。
また例年、自由民主党「予算・税制等
に関する政策懇談会」において提出して
いる要望書の報告をしました。

第36期第5回支援検討会議

日時：令和7年11月12日13時半～
会場：本会会議室(オンライン併用)
出席委員…

- 吉田泰樹(東京都仏教連合会)
- 長谷川正浩(本会顧問弁護士)
- 茅野俊幸(学識経験者)
- 稲場圭信(学識経験者)
- 新井順證(全日本仏教青年会)

【概要】

①救援基金報告、②第30次災害救
助成金審査について(2025年2月1日
～2025年9月30日)、③「ミャンマー
地震」救援基金寄託について(報告)、
④第6回支援検討会議日程について協
議しました。

第8回法人創立70周年
記念事業実行委員会

日時：令和7年11月13日15時半～
会場：本会会議室(オンライン併用)
出席委員…

- 和田学英(事務総長)
- 伊藤道仁(曹洞宗)
- 渡邊弘文(浄土真宗本願寺派)
- 石井正道(真宗大谷派)
- 西 央成(浄土宗)
- 並木泰淳(臨済宗妙心寺派)
- 西村智秀(天台宗)
- 平野哲央(真言宗智山派)
- 鈴木義俊(山梨県仏教会)
- 茶円宥勝(島根県仏教会)
- 小川淳詩(公財)仏教伝道協会)
- 掬池友絢(学識経験者)
- 加藤京子(学識経験者)
- 村瀬友洋(学識経験者)
- 鈴木健太(学識経験者)
- 金原円応(学識経験者)

【概要】

定刻になり開会。和田学英委員長の
発声にて三帰依文を唱和、続き、挨拶。
委員長が議長となり検討事項に入りま

した。事務局より現況報告の後、検討
課題について委員間にて意見を交換
し、引き続き検討を重ねることとし
ました。

日蓮宗主催「終戦80年慰霊法要」
参列及びハワイ訪問

2025年11月14日、米国ハワイ州
の日蓮宗ハワイ別院にて終戦80年慰
霊法要が執り行われました。法要は真珠
湾攻撃で散華された日本兵の霊簿に加
えて、犠牲となったアメリカ人兵士の
霊簿も保管する日蓮宗ハワイ別院及び
日蓮宗が主催し、本会が協賛いたしま
した。本会からは日谷照應理事長、富
岡孝彰国際部長、楠宗紹広報文化部長
が出席し、日本とハワイの仏教界から
日米両国の全ての戦没者に哀悼の意を
表するとともに、不戦の誓いを新たに
いたしました。

【11月12日】

法要の前々日には、ハワイのオアフ
島からマウイ島へ向かい、2023年
8月に火災にあったラハイナ地区を訪
れました。マウイ島での行程は浄土真



宗本願寺派の
廣中愛開教師
に懇切丁寧に
ご案内いた
きました。
最初に浄土
宗のラハイナ
浄土院を訪れ、
原源照住職か
ら被災の話や日系移民の抛り所として
あったお寺の歴史を伺いました。海から
ほど近い境内には焼失を免れた大仏だけ
が残されています。

次に本堂に続く階段だけが残り、境
内に慰霊塔婆が建立された高野山真言
宗のラハイナ法光寺を訪れて目黒孝範
主任開教師とともに手を合わせました。
そして、廣中師が護寺されていたラ
ハイナ本願寺では納骨堂と本堂へ続い
ていた階段だけ
が残されていま
す。階段を上る
と、ラハイナで
も一番広かった
という境内の書
院などの跡地が
広がっていま



た。
火災のあった当日は電柱が倒れる
ほど風が強かったそうです。道路上に
は電柱や木が多く倒れこみ、車道が塞
がれ、倒れた電柱から出火。山火事
のような報道も見受けられますが、街の
火事であるそうです。被災時の状況や
被災者としてのお心持ち、訪問者や報
道機関との心情の齟齬などさまざまに
お話を伺いました。

今回特に慰霊訪問したマウイ島ラハ
イナ地区の3ヶ寺(ラハイナ浄土院、
ラハイナ法光寺、ラハイナ本願寺)は
ラハイナ地区で100年以上の歴史を
持ち、日系人や地域コミュニティの拠
り所となっていた寺院です。街は未だ
復興にはほど遠く、寺院では新たな形
での復興を目指した活動が少しずつ行
われています。マウイ島ラハイナ地区
への救援基金については本会財務部に
お問い合わせてください。

その後、一行はマウイ島の加盟団体
各寺院を敬訪問いたしました。

【11月13日】

法要前日は、ハワイ仏教連盟の会長
で、浄土真宗本願寺派ハワイ本派本願

寺の海谷聡之開教総長にオアフ島寺院
をご案内いただきました。まず、仏教
伝道協会ハワイ支部を訪問し、ジョー
ジ・タナベ先生と懇談します。ハワイ
大学の名誉教授も務められたタナベ先
生には、ハワイやアメリカの仏教事情
などを伺いました。続き、マキキ日本
人墓地へ。ここではハワイ日本人移民
慰霊碑や旧日本国海軍の鎮魂碑にお参
りをしました。

午後には浄土真宗本願寺派ハワイ別
院を敬訪問し、広い洋式の本堂で諷
経を行いました。その後、本願寺派ハ
ワイ別院の地下書院を会場にハワイ仏
教連盟との懇談会が行われました。ハ
ワイ仏教連盟はハワイ州オアフ島に本
部を置く日本の7宗派により構成さ
れ、花まつりやお盆など宗派を超えて
様々な活動を積極的に行っている歴史
ある組織です。また、今後はWFBハ
ワイセンターの機能もより活発にして
いくことが期待されています。

今回は海谷総監の他、曹洞宗ハワイ
国際布教総監部・駒形宗二総監、真宗
大谷派ハワイ開教総監部・井上尚美監
督、浄土宗ハワイ開教区・石川光宣総
監、高野山真言宗ハワイ開教区・ク

ラーク渡邊全久総監、天台宗ハワイ別
院・田中祥順住職の6宗派の代表が参
加(ハワイ日蓮宗別院の池永英清主任
は翌日の法要のため欠席)。懇談会
は、日谷理事長とともにハワイの開教
区の現状や課題、本会や各宗務所との
連携、ビザの問
題、WFB世界
大会、ハワイで
は宗派に拘らな
い協力が行われ
ていることなど
が和やかに話さ
れ、大変意義深
い会となりました。



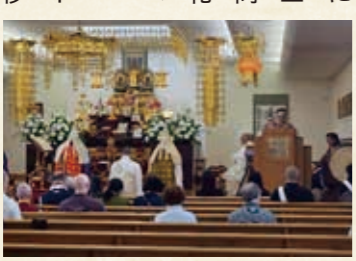
懇談会後、参加された総監方も含め、
隣接する本願寺ミッシェンスクールを
視察し、現地での友好を深めました。

【11月14日】

日蓮宗ハワイ別院にて、日蓮宗の田
中恵紳宗務総長の導師のもと、日本か
ら来られていた5名の式衆とともに
「終戦80年慰霊法要」が厳修されまし
た。壇上には日谷照應理事長やハワイ
仏教連盟の各総監方、来賓ゲストが上
がりました。

法要後、WFBパロップ・タイアリー
会長の平和メッセージをハワイ仏教
連盟の海谷聡之総長が代読しました。
WFBパロップ会長の「平和とは受動
的なものでなく、慈愛をもって応え、
智慧をもって語り、慈悲をもって行動
する」という意識的な選択です」という
メッセージに日米の参加者は深く頷い
ていました。

続き、日谷照應理事長が挨拶し、「本
日の法要を通じて、平和の大切さを改
めて考える機会にするとともに、私
ち自身が、過去の悲しみを心に刻みな
がら、平和を生きる者として歩み続け
る」と誓いました。
最後に日蓮宗の田中総長が「恒久の
平和のために
どう生きるか」
と参加者に問
いかけ、御礼
の挨拶を述べ
られました。
午後にはパー
ルハーバーへ移



動します。パールハーバー国立記念公
園のトム・レザーマン管理監督者の案
内により専用船でアリゾナ記念館に向

かい、追悼式が営まれました。参加者一同は旧日本軍が沈めた戦艦アリゾナが沈む真上で諷経を行い、一人ひとりが海に眠る日米の犠牲者に一輪の献花を捧げました。



第49回理事会

日時：令和7年11月20日14時
会場：京都・間法会館(オンライン併用)
議長：日谷照應第36期理事長
出席理事：15名(20名中)
和田学英(曹洞宗・第36期事務総長)

日谷照應(浄土真宗本願寺派・第36期理事長)
里雄康意(真宗大谷派第35期理事長)
戸松義晴(浄土宗)
秋山文裕(日蓮宗)
小林秀嶽(臨済宗妙心寺派)
船戸俊宏(天台宗)
加久保範祐(真言宗智山派)
岩脇彰信(真言宗豊山派)
吉田明良(和宗)
一宮良範(念法真教)
三吉廣明(東京都仏教連合会)
軽部浩史(愛知県仏教会)
長澤香静(京都仏教会)
石原伸俊(岡山県佛教会)
出席監事：2名(2名中)
平井良昌(一社)仏教情報センター
木村匡成(公認会計士)

議案事項は、
①第37期会長副会長の推戴について承認を求める件
推戴候補者は以下の通り。
会長：持田日勇(日蓮宗管長)
副会長：武田圓龍(天台真盛宗)
副会長：沢田教英(西山浄土宗)
副会長：松村隆誉(真言律宗)
副会長：小澤憲珠(東京都仏教連合会)
副会長：山下俊茂(福岡県仏教連合会)
副会長：東伏見具子(公社)全日本仏教婦人連盟
※順不同・敬称略
を上げし、出席理事全員の賛成により承認されました。
協議事項は、
①2026(令和8)年度事業大綱(案)について賛同を求める件
②2026(令和8)年度予算大綱(案)について賛同を求める件
を上げし、事務総局が説明し出席した理事全員が賛同されました。
報告事項は、
①理事長の職務執行状況
②法人創立70周年記念事業が報告されました。

日時：令和7年11月27日14時
会場：本会会議室(オンライン併用)
出席委員：
和田学英(事務総長)
伊藤道仁(曹洞宗)
渡邊弘文(浄土真宗本願寺派)
坂詰秀正(日蓮宗)
井上聖憲(高野山真言宗)
並木泰淳(臨済宗妙心寺派)
西村智秀(天台宗)
平野哲央(真言宗智山派)
吉田真澄(真言宗豊山派)
鈴木義俊(山梨県仏教会)
茶田有勝(島根県仏教会)
加藤京子(学識経験者)
村瀬友洋(学識経験者)
鈴木健太(学識経験者)

第9回法人創立70周年 記念事業実行委員会

し、引き続き検討を重ねることとしました。

「救援基金」寄附者一覧

【2024(令和6)年9月1日～】
2024(令和6)年11月30日
(時系列順・敬称略)
海眼寺 芝原三裕
北条仏教会
匿名希望5件
総計 128,600円

「賛助会員」新規入会者一覧

【2025(令和7)年9月1日～】
2025(令和7)年11月30日
(時系列順・敬称略)
(法人会員)
株式会社366
金澤寺 宮寺守正
(一)入会、誠にありがとうございます。

大蔵経とは何か

『大正新脩大蔵経』刊行100周年
お釈迦さまから受け継いだ私たちの宝物



日時 令和8(2026)年2月21日(土)13時～16時
場所 大正大学761教室(東京都豊島区西巣鴨3-20-1)
参加費 無料 要事前申込 <https://forms.gle/Djs6rMtM4uG7i6dr6>



醍醐味、自業自得、諦める……。
私たちが日常でなにげなく使うこれらの言葉の奥には、仏教の教えがあります。その教えが記されるのがいわゆるお経です。お釈迦さまの教えを収めたお経は、時代を経て般若心経、法華経、浄土三部経などさまざまに広がりました。それらを集めたものを「大蔵経」と言います。仏教の核心とも言える大蔵経は、歴史上、何度も集められ、守られ、受け継がれてきました。
中国や朝鮮半島という別々の場所、別々の時代に編纂された三つの大蔵経を、17世紀に徳川家康が集めて、菩提寺である江戸の増上寺に寄進しました。その後、災害や戦争から増上寺が守り抜いたそれら三つの大蔵経は、2025年にユネスコの「世界の記憶」に登録されました。本シンポジウムでは、この登録の経緯を手がかりに大蔵経が現代に語りかける意味をひもときます。

| | |
|--|---|
| <p>第1部 講演</p> <p>「増上寺の三つの大蔵経 —ユネスコ『世界の記憶』登録から見える価値—」</p> <p>講師：柴田泰山(大正大学非常勤講師)</p> | <p>第2部 シンポジウム</p> <p>「大蔵経のこれまでとこれから —お釈迦さまの教えを未来につなぐ—」</p> <p>コーディネーター： 下田正弘(武蔵野大学教授)</p> <p>パネリスト： 柴田泰山(大正大学非常勤講師) 高橋晃一(東京大学教授) 和田学英(全日本仏教会事務総長)</p> |
|--|---|

〈問い合わせ先〉 公益財団法人 全日本仏教会 広報文化部
TEL: 03-3437-9275 E-mail: kouho@jbf.ne.jp

花まつり

ポスター頒布・絵はがき配布

(2026[令和8]年1月より申込、2月より発送を開始いたします。)
花まつりデザイン応募作品から作成いたしました!!

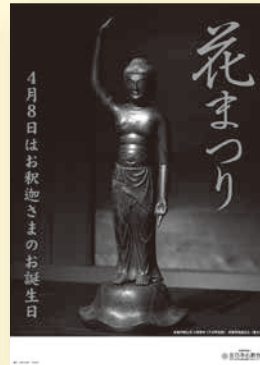
全日本仏教会では「花まつり」の社会宣揚を推進すべく花まつりポスターの頒布と絵はがきの配布を行っています。2025年に第9回を迎えた花まつりデザイン公募も仏教行事「花まつり」を題材に自由に描いていただきました。国内外から158点の応募をいただき、その中から大賞に選ばれた作品でポスターと絵はがきを作成いたしました。地域や寺院で開催される「花まつり」や春のイベント告知に、新春のご挨拶や感謝の気持ちを伝えるツールとしてご活用いただけると幸いです。皆さまからのご注文、お待ちしております。また、少数でもお気軽にご注文ください。



ポスター大賞
笑顔につつまれて



ポスター大賞(満12歳以下)
雲に咲く花まつり



真言宗智山派
大報恩寺(千本釈迦堂)
銅像釈迦誕生仏(重文)

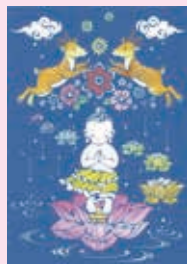
- ◆ポスター:
1枚80円
(※別途、送料が必要です)
- ◆サイズ:A2



「笑顔につつまれて」



「蓮のうえの仏様」



「誕生」

絵はがき大賞とポスター大賞作品

- ◆絵はがき(3枚1組):無料
(※別途、送料が必要です。)

在庫に限りがありますのでお早めの申込をお願いします。

皆さまの花まつり・春のイベントを紹介します!

本会Webサイトでは全国の「花まつり」や春のイベントを紹介したく、開催情報をお待ちしております。一人でも多くの方に「花まつり」を知っていただき、お釈迦さまのご誕生を皆さんでお祝いいたしましょう。

【申し込み】

広報文化部

E-mail:kouho@jbf.ne.jp

※申込用紙は本会webサイトよりダウンロードいただけます。(https://www.jbf.ne.jp/)

全日本仏教会

検索

<https://www.jbf.ne.jp>

発行人 和田学英

発行所 公益財団法人 全日本仏教会

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階

TEL:03-3437-9275 FAX:03-3437-3260

e-mail:info@jbf.ne.jp



公益財団法人
全日本仏教会
WFB(世界仏教徒連盟)日本センター

